

「JISAコンベンション2012」経団連会館で開催

平成24年10月2日、情報化月間関連行事として「JISAコンベンション2012」が経団連会館(東京・大手町)で開催され、講演会に330名、情報交換パーティーに300名が参加した。今回の講演は、JISAの活動テーマの中から「ダイバーシティ」「最先端情報技術」「グローバルチャレンジ、経営改革」を題材として、業界内外から講師を招いた。司会進行は俳優・アーティストの金子あいさん。



開会にあたり、浜口友一会長が、「皆様、大変お忙しいところご参加いただきありがとうございます。JISAコンベンションは、毎年コンベンション企画会議の委員が工夫を凝らして講師の方をお招きしています。今日は、宮本亜門さん、武田浩一さん、樋口久子さんと、それぞれ興味深いお話を伺えると思います。さて、今年は復興の年、政治の年と言われていますが、未だにリーマンショックから立ち直れない状況が続き、領土問題も起きています。10月には中国指導部の交替、11月にはアメリカ、12月は韓国の大統領選挙があり、この3か月が終われば少し状況が変わるかと思えます。翻って日本はというと、日本語は難しいところがあり『近いうちに』を英語の辞書で引くとどう考えても“soon”しかないのですが、ひょっとしたら来年か…という話もあります。これも含めていろいろ決着することによって経済も良い方向に向くのではないかと、そして、来年の賀詞交歓会ではどうなったかお話しできるのではないかと思います。本日は十分お楽しみください」と挨拶した。



最初に、演出家、神奈川芸術劇場<KAAT>芸術監督・宮本亜門さんが「違うから面白い、違わないから素晴らしい～亜門流仕事学～」と題して講演を行った。



亜門さんは、自分が周りの子どもと違うという理由で冷やかされた幼少時代、心の安らぎを求めて仏像にのめり込んだ中学時代、登校拒否とひきこもりの高校時代など、現在の明るいイメージからは想像し難い生い立ちを紹介し、そこから自分を理解してくれる人の存在で立ち直った経緯を語った。

後半は、「演出家の仕事は、役者の個性を尊重し、それぞれの能力を最大限に引き

出して、最高の舞台を観客に見せること」という亜門流仕事学として、「奉仕型のリーダー」としての「コミュニケーションの大切さ」を説いた。異文化とは何か、どう納得してもらうのかを巧みな話術で語り、満場の拍手で講演を終えた。新著「引きだすカー奉仕型リーダーが才能を伸ばす」(NHK出版)も絶賛発売中。

続いて、日本アイ・ビー・エム(株)東京基礎研究所技術理事・武田浩一さんが「奇跡の“ワトソン”プロジェクト～最先端ITのもたらす社会～」と題し、現在



大きな注目が集まっている情報処理システム「IBMワトソン」について、同社の技術戦略を含めて解説した。

ワトソンは、チェス王者カスパロフ氏を破った「ディープブルー」の後継プロジェクトであり、自然言語を認識し瞬時に回答を導き出すことによってアメリカの人気クイズ番組「Jeopardy!」の王者2人を相手に勝利し、NHKスペシャルでは「“世界最強”の人工知能」と呼ばれた。

武田さんは、プロジェクトの初期から参画している数少ない日本人技術者であり、構文解析、検索、並列クラスタ、確信度判断、ゲーム戦略など高度な組合せで動作するワトソンについて、「ハードウェアはもちろんだが、ソフトウェアの部分が非常に重要」と話した。アメリカでは、既に医療・保険分野を中心に実用化が進められており、他分野での応用や将来の日本語化も注目される。

最後の講演は「私のゴルフ人生」と題して、「世界のチャコ」こと(社)日本女子プロゴルフ協会相談役・樋口久子さん、聞き手・小野田祐子さん(TIS(株)執行役員、JISA人材部会企画WG座長)で進められた。

樋口さんは、日本女子プロゴルフの先駆者として活躍し、米国ツアー挑戦では日本人初の「全米女子プロゴルフ選手権」優勝など数々の記録を残している。



また、会長時代は、低迷する女子プロツアーの再建、スポンサーの確保、ファンサービスの充実、アマチュア選手への門戸開放、次世代人材育成、組織改革で手腕を発揮し、現在の女子プロゴルフの大人気を築いた。

質疑応答では、国際競争の一端として「韓国勢の強さの秘密」を、個人・家族・国家がどういうレベルで取り組んでいるかという視点で解説し、IT業界と相通じる部分を感じさせた。会場は、選手時代からの樋口ファンも多く、聞き手小野田さんとの小気味良い掛け合いを堪能した。



講演会終了後、情報交換パーティーが開催され、島田俊夫副会長が乾杯の音頭を取った。パーティーには講師の樋口久子さん、武田浩一さんも出席し、多くの参加者に囲まれた。

(高松)

※「奇跡の“ワトソン”プロジェクト～最先端ITのもたらす社会～」 「私のゴルフ人生」の講演抄録を、JISA会報2013年1月号に掲載する予定である。